

NACSIS-CAT/ILL

ニュースレター

Contents

1. Webcat Plus のリニューアル	2
2. 平成 20 年度 NACSIS-CAT/ILL 業務分析表の送付	2
(NACSIS-CAT)	
3. 和図書書誌レコードの事前登録作業の試行実施	3
4. OCLC 参照ファイル利用時の注意事項	4
5. リモートアクセスされる電子ブックの取扱い及び解説, コーディングマニュアルの公開	5
6. コーディングマニュアルの一部改訂	5
7. レコード調整のマナーについて	7
(NACSIS-ILL)	
8. ILL 文献複写等料金相殺サービス処理報告 (平成 21 年度第 2, 3 四半期) 9	
9. ILL システム改修 (SENDG の繰り返し数超過時の処理変更) のリリース 10	
10. ILL レコードの最終状態への遷移のお願い 10	
(教育研修事業)	
11. 平成 21 年度 NACSIS-CAT/ILL ワークショップの実施報告 11	
12. 平成 21 年度目録システム / ILL システム講習会の実施報告 12	
13. 平成 22 年度目録システム / ILL システム講習会の講師募集 13	
(付録)	
・ コーディングマニュアル (第 4 章 洋図書書誌レコード 4.2.1 TR)	
・ コーディングマニュアル (第 6 章 和雑誌書誌レコード 6.1.5 YEAR)	
・ リモートアクセスされる電子ブックの取扱い及び解説	
・ コーディングマニュアル (リモートアクセスされる電子ブックに関する抜粋集)	



大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立情報学研究所

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号
学術コンテンツ課

NACSIS-CAT 担当…………… Tel:03-4212-2310 Fax:03-4212-2375

NACSIS-ILL 担当…………… Tel:03-4212-2320 Fax: 同上

教育研修事業担当 …… Tel:03-4212-2177 Fax: 同上

基盤企画課

システム管理担当 …… Tel:03-4212-2220 Fax:03-4212-2230

URL:<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/>

Webcat Plus のリニューアル

Webcat Plus は、目録所在情報データベース (NACSIS-CAT) に日英の新刊書情報を目次データと共に追加して、Webcat の検索機能を補完する検索サービスとして御利用いただいています。

現在、国立情報学研究所では、平成 22 年 4 月のリニューアルを目指して、連想情報学研究開発センターを中心に、次期 Webcat Plus の新規開発を進めています。従来の図書館 OPAC サービスという概念に捉われずに、本、作品、人との出会いを提供する新しいサービスとして生まれ変わる予定ですので、御期待ください。

なお、今回のリニューアルによって、提供する情報、デザイン等の変更が生じます。変更の詳細については、適宜、下記 URL のページにて公開しますので御確認ください。

URL : <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/system/webcatplus/>

(学術コンテンツ課)

平成 20 年度 NACSIS-CAT/ILL 業務分析表の送付

平成 21 年 12 月に、NACSIS-CAT/ILL 参加図書館(機関単位)に「平成 20 年度 NACSIS-CAT/ILL 業務分析表」を送付しましたので、今後の業務の参考として御活用ください。また、継続所蔵・未更新所蔵リストのうち、未更新フラグが付いたものについては、御確認の上、データの更新処理をお願いします。

なお、業務分析表の電子データ (Excel 形式) の申請も受け付けていますので、御希望の方は、以下のとおり、メールで申請してください。

- メール宛先 : catadm@nii.ac.jp (学術コンテンツ課 図書館連携チーム CAT 担当)
- メール件名 : H20 業務分析表電子データ申請 (自機関の KID 番号) *
- 申請内容
 1. 機関名
 2. KID 番号
 3. 担当者
 4. 担当者メールアドレス

- * KID 番号とは、お送りした業務分析表の機関名の下に記載した KI+6 桁の数字の番号です。

詳しくは、以下の URL にてお知らせしています。

URL : <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/bunseki2009.html>

(学術コンテンツ課)

和図書書誌レコードの事前登録作業の試行実施

国立情報学研究所では、試行的に和図書書誌レコードの事前登録作業を平成 22 年 1 月より開始しました。

参加組織名「FA024487 国立情報学研究所 事前登録書誌 1」で作成された書誌レコードが事前登録された和図書書誌レコードに相当し、同時に所蔵レコードも登録しています。

該当書誌レコードの修正は、通常の修正指針に従って修正作業を行ってください。

書誌調整に関するお問合せは、下記のとおり御連絡ください。

- ・ 送り先 catadm@nii.ac.jp
- ・ メール の 件 名 : 「事前登録書誌について」

事前登録の試行作業は、当面 3 ヶ月間行うことを予定しています。試行作業終了後、一定期間（半年から 1 年）経過した書誌レコードについては FA024487 の所蔵を削除し、他の参加館の所蔵のない書誌レコードについては書誌レコードの削除を行います。

なお、事前登録書誌に関する詳細情報を、以下の URL にて順次公開します。

URL : <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/cip/>

(NACSIS-CAT 担当)

OCLC 参照ファイル利用時の注意事項

平成 17 年 2 月の OCLC 参照ファイルの提供開始から、5 年余りが経過しました。

本誌 16 号 (2005.3.25) でもお知らせしたとおり、OCLC とは「NACSIS-CAT への書誌レコード登録のための参照」に限定した利用契約を結んでいます。NACSIS-CAT への登録を行わない検索・ダウンロード等を行いますと、利用契約に抵触します。また、OCLC に関しては、検索・参照数に応じて利用料金が発生します (参加館への請求が発生することはありません) ので、OCLC の検索や OCLC からの流用入力は、他の参照ファイルで充足可能な場合、行わないようお願いいたします。

OCLC 参照ファイル利用時の注意事項については、本誌 20 号 (2007.3.31) でもお知らせしておりますが、各参加館においては、OCLC 参照ファイルの利用についてあらためて原則を確認するとともに、十分留意した上で利用するようお願いいたします。

OCLC 参照ファイル利用時の注意事項

- ・ 「ダウンロードのみ」、「検索のみ」といった、NACSIS-CAT への登録を伴わない目的での利用は行わないでください。
- ・ 総合目録データベース、既存参照ファイルを検索した上で、なおもノーヒットの場合にのみ利用してください。
- ・ システムに過度の負担がかかるため、ヒット件数が大量となる検索 (普通名詞 1 語による検索等) はあらかじめ避けてください。
- ・ OCLC のデータベースから流用入力する場合、SOURCE フィールド (元レコード種類) には、必ず「OCL」と記録するようにしてください。(WebUIP などでは、OCLC から流用入力した際は、システムが自動的に記録します。)

(参考)

- ・ OCLC の接続利用のガイドライン

URL : http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/z3950/z3950_oclc.html

(NACSIS-CAT 担当)

リモートアクセスされる電子ブックの取扱い及び解説, コーディングマニュアルの公開

本誌 28号 (2009.10.30) でお知らせしたとおり、リモートアクセスされる電子ブックに関する「取扱い及び解説 (案)」、「コーディングマニュアル (案)」について、平成 21 年 10 月に意見公募を行い確定しましたので、本号付録として公開します。

なお、この「取扱い及び解説」と「コーディングマニュアル」は、「次世代目録所在サービスの在り方について (最終報告)」で提案されている取扱い方法が確立するまでの暫定的な取扱いとなります。また、平成 22 年 4 月 1 日より運用開始としますが、運用開始前に「OCLC NetLibrary」の和図書誌データの事前登録を開始します。

「取扱い及び解説」と「コーディングマニュアル」は、以下の URL でも公開しています。

URL : <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/catmanual.html>

(NACSIS-CAT 担当)

コーディングマニュアルの一部改訂

コーディングマニュアルに関して、以下の部分を改訂しましたので、お知らせします。

- 初号がない場合の雑誌の刊年 1 への記載 (6.1.5 YEAR E6)

【改訂前】

初号を所蔵していないため、出版・頒布開始年が PUB フィールドに記入できない場合でも、刊年 1 には「1---」を記入する。

【改訂後】

初号を所蔵していないため、出版・頒布開始年が PUB フィールドに記入できない場合でも、刊年 1 には推定可能な部分までを数字で記入し、不明の部分のみハイフンを記入する。

(例) 所蔵巻号 No.2, 2007.8 発行, 年 1 回刊の場合

YEAR:200-

PUB:岡山 : 日本細胞生物学会

NOTE:記述は No. 2 (2007. 8)による

(理由)

西暦 2000 年以降に初号が刊行されたと推定される雑誌について、改訂前のように、刊年 1 に一律に「1---」と記入するのは不自然なため、コーディングマニュアルを改訂します。今後は、刊年 1 には推定される部分を数字で記入し、不明の部分のみハイフンを記入するようにしてください。(西暦 1999 年以前に初号が刊行されたと推定される雑誌についても同様です)

なお、洋雑誌についても、和雑誌に準じて記入してください。

○並列タイトルのヨミ付与 (4.2.1 TR F3(並列タイトル))

並列タイトルに日本語タイトルが含まれている場合のヨミの付与の例

【改訂前】

TR: Poupées japonaises = Dolls of Japan = 日本人形 || ニホン ニンギョウ

※「日本△人形」では検索できない。

【改訂後】

TR: Poupées japonaises = Dolls of Japan = 日本人形 || Poupes japonaises =
Dolls of Japan = ニホン ニンギョウ

(理由)

これまでコーディングマニュアルでは、並列タイトルに日本語タイトルが含まれている場合は、日本語部分のみヨミを付与するような例を挙げていました。

しかし、現在の「漢字分かちインデクス」の仕様では、タイトル部分とヨミ部分の対応関係が、インデクス作成に重要な役割を果たすようになっていきます。具体的には「=」前後にばらつきがあると、正しくインデクスが作成されないこととなります。そのため、並列タイトルに日本語タイトルが含まれている場合は、必ず欧文部分も含めた形で、ヨミを記載するようにしてください。

付録として、改訂部分のコーディングマニュアルを添付します。

(NACSIS-CAT 担当)

レコード調整のマナーについて

平素から、レコード調整に御協力くださりまして、ありがとうございます。

レコード調整については、コーディングマニュアル 21 章で規定されています。最近、コーディングマニュアル 21 章の規定を逸脱した修正やレコード調整連絡を行うなどの事例が見受けられます。ついては、レコード調整を行う際に御注意いただきたいマナーについてお知らせしますので、十分御注意ください。

1. 問い合わせを受けた時

- (1) レコード調整の連絡を受領した旨の返信は必ず行ってください。
- (2) 資料現物の確認が難しい場合（貸出中、研究室所蔵、所在不明等）は、その旨、発見館に連絡し、対応を相談してください。
- (3) 人手不足等を理由に、レコード調整の問い合わせに応じない参加館が見受けられますが、そのような運用は、目録所在情報サービスを利用する上で、認められておりませんので、レコード調整に御協力ください。

2. 問い合わせをする時

- (1) 下記により、事前に問い合わせ内容の根拠を確認してください。
 - ① マニュアル類や目録規則（「コーディングマニュアル」、「目録情報の基準」、「日本目録規則」、「英米目録規則（AACR2）」等）を確認する
 - ② NACSIS-CAT/ILL Q&A データベースを確認する（過去に同様の事例が登録されている可能性もあります）
 - ③ これらのマニュアル類や目録規則を確認しても、やはり疑問点や不明点が生じる場合には、レコード調整を行う
- (2) 問い合わせを行う際には、必ず次の 2 つを問い合わせ先に提示してください。
 - ① 自館所蔵資料の情報源のコピー（標題紙、表紙、奥付等）
 - ② 問い合わせ内容の根拠
例：コーディングマニュアル〇章の例によると・・・

3. レコード調整後の処理

レコード調整の結果、書誌を修正する場合は、原則として、作成館が書誌を修正してください。

コーディングマニュアル 21.0C1 にあるように、(b) 発見館が作成館と連絡・協議をする必要がある修正については、原則として作成館が当該書誌レコードの修正を行うことになっています。作成館と発見館の双方が同意すれば、発見館が修正を行うこともできますが、作成館が一方的に発見館に修正を依頼することはしないでください。

また、協議がうまくいかなかった場合は、原則として、既存の書誌レコードを維持することになります。

参考までに、国立情報学研究所は、レコード調整については、以下のような立場を取っています。

- ・作成館と発見館の意見が分かれる時は、（明らかに規則上の誤りでない限り）原則として作成館の判断を優先します。
- ・国立情報学研究所は総合目録データベースの円滑な運用のための調整役として、データベースの品質管理を行っています。

以下の記事も参考にしてください。

URL : <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/PUB/nl2/No25/006P.htm>

(NACSIS-CAT 担当)

ILL 文献複写等料金相殺サービス処理報告 (平成 21 年度第 2 四半期～第 3 四半期)

ILL 文献複写等料金相殺サービスの処理状況は、以下のとおりです。

■ 平成 21 年度第 2 四半期 (平成 21 年 7 月～9 月)

- ・利用機関数：788 (※ 債務、債権ともに発生しなかった機関は 3 機関)
- ・処理対象 ILL レコード件数：219,072 (NACSIS-ILL 総レコード件数：242,995)

		対債務機関	対債権機関
機関数		477	308※
NII の請求額/支払額		22,658,001	▲22,582,486※
内 訳	相殺金額	22,627,680	▲22,627,680
	運営費 (税込)	33,075	0
	前期債権繰越額	▲2,754	▲4,729
	振込手数料	---	49,923

※対債権機関の機関数、NII の支払額には次期繰越分(11 機関, 5,092 円)が含まれています。

■ 平成 21 年度第 3 四半期 (平成 21 年 10 月～12 月)

- ・利用機関数：794 (※ 債務、債権ともに発生しなかった機関は 3 機関)
- ・処理対象 ILL レコード件数：237,412 (NACSIS-ILL 総レコード件数：263,235)

		対債務機関	対債権機関
機関数		481	310※
NII の請求額/支払額		23,823,739	▲23,759,303※
内 訳	相殺金額	23,813,249	▲23,813,249
	運営費 (税込)	12,600	6,300
	前期債権繰越額	▲2,110	▲2,982
	振込手数料	---	50,628

※対債権機関の機関数、NII の支払額には次期繰越分(7 機関, 2,298 円)が含まれています。

(NACSIS-ILL 担当)

ILL システム改修(SENDG の繰り返し数超過時の処理変更)のリリース

本誌 28 号 (2009.10.30) でお知らせした ILL システム改修 (SENDG(履歴グループフィールド) の繰り返し数超過時の処理変更) について、以下の通りリリースを行う予定です。

- リリース時期 : 平成 22 年 6 月～7 月頃
- エラーコード : Status-Code = 520
Reason-Phrase = Server error(group repeat over(SENDG))
- システムの動作: SENDG の繰り返し数 51 回目の更新時にエラーとなり、状態遷移は行われません。その後はコマンドの発行は実行できなくなります。

(NACSIS-ILL 担当)

ILL レコードの最終状態への遷移のお願い

平成 22 年 1 月末時点でのカレントファイルの ILL レコード (931,991 件) の状態別件数を調査したところ、以下の通りでした。途中状態のまま長期間経過しているレコードがありましたら、御確認の上、適宜、最終状態 (CANCEL, 確認, 返却確認) へ遷移していただきますよう御協力をお願いします。

途中状態	(作成日が平成 21 年 4 月以前の件数) / (件数)
準備中	11,813 / 13,831
未処理	2 / 1,345
外部依頼中	97 / 389
処理中	67 / 1,261
新着照会	1 / 73
照会	463 / 991
回答待	0 / 28
発送	66 / 6,676
到着処理中	55 / 1,282
クレーム未処理	0 / 3
クレーム回答待	0 / 15
借用中	52 / 4,585
更新請求	0 / 3
返送	0 / 679
返却クレーム未処理	0 / 4
返却処理中	13 / 41
最終状態	(件数)
CANCEL	63,089
確認	751,049
返却確認	86,647

本件に関する問い合わせ先: NACSIS-ILL 担当 (E-mail: illadm@nii.ac.jp)

(NACSIS-ILL 担当)

平成 21 年度 NACSIS-CAT/ILL ワークショップの実施報告

平成 21 年 12 月 2 日 (水) ～4 日 (金) に開催した「NACSIS-CAT/ILL ワークショップ」では、「目録業務のマネージメント」をテーマにグループ討議の課題として、以下の二つを設定しました。

- 目録業務外注仕様書の改訂
- NACSIS-CAT/ILL セルフラーニング教材の改善案・新規教材原案の作成

受講者は選択した課題について、事前に現状分析・問題提起とその改善案・原案を提出し、それに基づき研修初日にプレゼンテーションを行いました。さらに下記の講義・事例報告を通じて、問題点の明確化・問題意識の共有化が進み、グループ討議及び全体討議を経て、より具体的な提言を成果物として提出することができました。3 日間のカリキュラムを通じて、異なる立場の担当者が主体的・集中的に協働作業を行い、問題解決をするという「目録関連業務における機関内の中核的人材」養成にふさわしいワークショップになりました。

◆ 講義内容

講義名	講師
NACSIS-CAT/ILL の理念および現状	平田 義郎 (国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課係長)
目録業務におけるスキル継承への取り組み	矢崎 美香 (九州女子大学・九州女子短期大学 附属図書館主査)
長崎大学における 遡及入力プロジェクト (事例報告)	西村 理絵 (長崎大学学術情報部学術情報管理課 学術情報管理班主査(図書情報担当))
受託の視点から見た目録業務 マネージメント	(丸善株式会社 学術情報ソリューション事業部 ネットソリューションセンター MaruzenCATS グループ担当部長)
NACSIS-CAT/ILL セルフラーニング 教材の現状と課題	高野 真理子 (NPO 法人大学図書館支援機構 副理事長)

◆ 発表内容

発表タイトル	受講者
目録業務外注仕様書 モデル改善案	小澤 亜紀子 (武蔵大学) 八神 加奈 (日本社会事業大学) 佐藤 友治 (文化女子大学) 渡邊 尚也 (東京家政大学) 原 健治 (同志社大学)
実践的なセルフ・ ラーニング	金子 尚登 (鳥取大学) 田中 俊二 (山口大学) 三枝 弘 (東北文化学園大学) 溝口 真澄 (東京大学)
NACSIS-CAT/ILL セルフラーニング教材の 改善案・新規作成原案	岸本 一志 (北海道大学) 中村 美里 (東京大学) 須賀井 理香 (東京大学) 檜原 啓一 (東北大学)

講義資料，受講者の成果物等は，教育研修事業ウェブサイトで公開しています。

URL : <http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/ciws/>

(教育研修事業担当)

平成 21 年度目録システム/ILL システム講習会の実施報告

平成 21 年度の目録システム/ILL システム講習会を，下記のとおり実施しました。

本講習会では，平成 20 年度より，1)「職場でのセルフラーニング（NACSIS-CAT/ILL セルフラーニング教材及びセルフラーニング修得テストの履修）」と2)「講習会場での集合研修（講義・実習）」という構成で実施しています。集合研修前にセルフラーニング教材で学習していただくことにより，「集合研修での講義内容が理解しやすかった」など，受講者の方からも好評をいただきました。

講習会名	回数		修了者数
目録システム講習会 (図書コース)	NII 会場	6 回	369 名
	地域会場	10 回	
目録システム講習会 (雑誌コース)	NII 会場	4 回	218 名
	地域会場	4 回	
ILL システム講習会	NII 会場	4 回	143 名
	地域会場	1 回	
合計		29 回	730 名

平成 22 年度も，引き続き「職場でのセルフラーニング」と「講習会場での集合研修」をもって，講習会の課程を修了するものとしたします。受講者の所属機関におかれましては，より一層，業務時間内でのセルフラーニング教材の視聴及び修得テストの受験について，御配慮いただきますようお願いいたします。

なお，セルフラーニング教材は利用申込することにより，どなたでも御利用になれます。詳細については下記ウェブサイトで公開しています。

教育研修事業ウェブサイト URL : <http://www.nii.ac.jp/hrd/>

平成 22 年度の講習会開催に係る情報は，『平成 22 年度教育研修事業要綱』として平成 22 年 4 月に各機関宛に冊子をお送りするとともに，上記教育研修事業ウェブサイトでもお知らせします。

(教育研修事業担当)

平成22年度目録システム/ILLシステム講習会の講師募集

国立情報学研究所では現在、平成22年度の目録システム/ILLシステム講習会の開催計画を準備中です。その講習会の講師を下記のとおり募集いたしますので、積極的に御応募ください。

コース	: 目録システム講習会 図書コース/雑誌コース ILLシステム講習会
講習会会場	: 国立情報学研究所/共催機関(開催館)
講習会日時	: 平成22年5月~12月(応相談)
募集要件	: 実務あるいは講師補助の経験を有し、講師担当について所属機関の許諾が得られる方
旅費等	: 講習会会場への旅費は国立情報学研究所が負担します。

※講師を御担当いただく講習会のコース、会場、日時、担当内容等は御希望を承ったのちに、平成22年度開催予定館と調整のうえ決定させていただきます。正式に決まり次第、御本人及び所属長宛に依頼文書を送付いたします。

※平成22年度開催予定館から既に講師について御相談等を受けていらっしゃる方は、本募集の対象外となります。

問い合わせ先:

教育研修事業担当 E-mail: edu@nii.ac.jp, TEL: 03-4212-2176

参考) 目録システム講習会のテキスト・カリキュラム等

URL: <http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/cat/>

教育研修事業担当からのメッセージ

講習会の講師を担当したことがない、人前で話をするのは苦手、事前にお手本となる講師の講義を見学できないか、等々不安や心配をお持ちの方も御安心ください。

- 講師を行う際の注意事項や講義の進め方をまとめた講義要領があります。
- 御希望の方には、担当前に実際の講習会の事前見学も可能です。
- 講師初任者、あるいは講義スキルを磨きたい方には、経験豊富な講師担当者による「講師ガイダンス」を予定しています。

受講者はあなたと同じ、NACSIS-CAT/ILLの目録/ILL担当者です。あなたがかつて講習会で講師から伝えられた知識・経験・スキル・情熱を次の方に伝えてみませんか。御興味のある方は、上記担当までお気軽に御連絡ください。

過去に講師を担当された方の感想

- 「準備等で大変だったが教えることで目録の知識を再確認することができ、自分にとって勉強になった。」
- 「受講者・他の講師と一緒に楽しく講習会を実施でき、講師をやって良かった。」
- 「講師も講師補助も経験の積み重ねが大事なので、より多くの図書館職員に経験してもらいたい。」

(教育研修事業担当)

F 1 (本タイトル) (続)**F 1. 5**

総合タイトルと個々の著作のタイトルの双方がタイトルページに表示されている場合にどちらを本タイトルとするかは、「基準」で規定されている図書書誌レコードの作成単位によって判断する。(⇒「基準」4. 2. 3 図書書誌レコードの作成単位)

これに関わるAACR2の2. 1 B 2は、日本語版刊行の後の改訂によって削除されたが、その内容は改訂後の1. 1 B 1 0に盛り込まれた。

AACR2 rev.ed. 1982 1. 1 B 1 0

主情報源に総合タイトルと個々の著作のタイトルの双方がある場合には、総合タイトルを本タイトルとして記録し、個々の著作のタイトルは内容注記に記録する(1. 7 B 1 8を見よ)。

(例示省略)

このとき、総合タイトルが集合書誌単位の本タイトル(又は中位の書誌のタイトル)に該当しなければ、AACR2の1. 1 B 1 0の指示に従い、総合タイトルを本タイトルとしてTRフィールドに記録し、個々の著作のタイトルはCWフィールドに記録する。(⇒4. 2. 6 CW)

TR:Œuvres de Dante Alighieri
 CW:La divine comédie / traduction de A. Brizeux
 CW:La vie nouvelle / traduction de E.-J. Delécluze

一方、総合タイトルが集合書誌単位の本タイトル(又は中位の書誌のタイトル)に該当する場合は、AACR2の1. 1 B 1 0の指示によらずに、総合タイトルを親書誌のタイトルとしてPTBLフィールドに記録し、個々の著作のタイトルを本タイトルとしてTRフィールドに記録する。(⇒4. 3. 1 PTBL)

TR:Impacts on nutrition and health / volume editor, Artemis P. Simopoulos
 PTBL:World review of nutrition and dietetics <BA00907569> v. 65//a

F 2 (一般資料表示)

資料種別はコード化してGMDフィールド並びにSMDフィールドに記録する。(⇒AACR2 1. 1 C, 及び2. 1 Cの任意規定)

F 3 (並列タイトル)

並列タイトルの記録に際しては、以下のF 3. 1～F 3. 4に示す例外を除き、AACR2の規則1. 1 D及び2. 1 Dに準拠する。

F 3. 1

AACR2の1. 1 D 2によって第2レベルの記述を作成する場合は日本語を優先する。すなわち、最初の並列タイトルを記録した後に、2番目以降の日本語で書かれた並列タイトルがあるときには、それも記録する。

変更

TR:Poupées japonaises = Dolls of Japan = 日本人形 || Poupes japonaises =
 Dolls of Japan = ニホンニンギョウ

F 3 (並列タイトル) (続)

F 3. 1 (続)

これに関わるAACR 2の規則1. 1D 2は、日本語版刊行の後に次のとおり改訂された。

AACR 2 1988 Revision 1. 1D 2第1段落

第2レベルの記述(1. 0D 2を見よ)を作成する場合は、最初の並列タイトルを記載する。2番目以降の英語で書かれた並列タイトルはそれも記載する。

(例示省略)

第2レベルの記述において、次の条件、すなわち

- a) 本タイトルがローマ字ではない
- b) 上述の指示によって記録した最初の並列タイトルがローマ字ではない
- c) 英語のタイトルが1つもない

のすべてに該当する場合、2番目の並列タイトルとして(この優先順位で)フランス語、ドイツ語、スペイン語、ラテン語、その他のローマ字の言語によるタイトルを記載する。

なお、参照ファイルからの流用入力によってレコードを作成する場合に、2番目以降の英語で書かれた並列タイトルが記載されていても、それを削除する必要はない。日本語の並列タイトルはこの前に挿入して記録する。

F 3. 2

主情報源に表示されている原タイトルは、AACR 2の1. 1D 3の指示によって記録する。ただし、第4文の指示については、記録先はNOTEフィールドではなく、VTフィールドに原書名コードORを付して記録する。(⇒4. 2. 5 VT)

F 3. 3

主情報源以外の個所に表示されている並列タイトルは、表示されていた箇所を示すコードを付してVTフィールドに記録する。

F 3. 4

並列タイトルに日本語のタイトルが含まれている場合は、その語句のヨミによる検索が可能となるように、そのヨミを和図書誌レコードの作成に関する規定に従って記録する。(⇒2. 2. 1 F 4)

F 4 (タイトル関連情報)

タイトル関連情報の記録に際しては、AACR 2の規則1. 1E及び2. 1Eに準拠する。

ただし、長いタイトル関連情報の省略又は短縮については、そのタイトル関連情報を索引語とする必要があるかどうかにより、採否を判断する。索引語とする必要がある場合は、表示のままTRフィールドに記録する。(⇒AACR 2 1. 1E 3)

なお、AACR 2の1. 1E 5第2段落のタイトル関連情報のみの並列の記録に関する任意規定は、日本語版刊行の後に改訂され、これを記録するときには等号に続けて記録する旨の指示が追加されているが、この任意規定は採用しない。(⇒5. 2. 2 任意規定の適用範囲)

6. 1. 5 E [データ記入及び記入例] (続)

E 4 (続)

初号、あるいは初号と終号の双方を所蔵しているが、出版・頒布年の表示がないため、規定の情報源以外からの情報を記録する、あるいは情報を推定補記する場合

YEAR:1977
 PUB:東京 : 全日本舞踊連合 , [1977]-

YEAR:1972 1976
 PUB:大阪 : 大阪府医師会 , 1972-[1976]

YEAR:1966 1970
 PUB:東京 : 音楽之友社 , [1966]-[1970]

E 5

出版・頒布日付に対応する西暦年が不明の場合は、不明部分の数字をハイフンで代用する。

YEAR:19--
 PUB:大阪 : 日本貿易振興会大阪支部 , [19--]-

E 6

初号を所蔵していないため、出版・頒布開始年がPUBフィールドに記入できない場合でも、刊年1には推定可能な部分までを数字で記入し、不明の部分のみハイフンを記入する（初号を所蔵していない場合、PUBフィールドには出版・頒布開始年を推定記入してはならない）。

終号は所蔵しているが、初号を所蔵していないために出版・頒布開始の日付が確認できない場合

YEAR:1--- 1990
 PUB:東京 : 経済調査会出版部 , -1990
 NOTE:記述はNo. 726 (昭36. 11)による

初号と終号の双方を所蔵していないために出版・頒布開始及び出版・頒布終了の日付が共に確認できない場合（刊行継続中のため、終号が事実上存在しない場合を含む）

所蔵巻号 No. 2, 2007. 8 発行, 年 1 回刊の場合
 YEAR:200-
 PUB:岡山 : 日本細胞生物学会
 NOTE:記述はNo. 2 (2007. 8)による

変更

変更

6. 1. 5 E (続)**E 7**

複製資料の場合は、原本の出版・頒布開始の日付に対応する西暦年を刊年 1 に、原本の出版・頒布終了の日付に対応する西暦年を刊年 2 に記入する。

YEAR: 1951 1971

PUB: 京都 : 臨川書店 , 1985

NOTE: 原本の出版事項: 東京 : 俳文學會 , 1951-1971

6. 1. 5 F 《注意事項》**F 1**

刊年 1 及び刊年 2 には、年月次データを記入してはならない。

F 2

同一の号が何刷も重ねて出版されている場合、刊年 1、及び刊年 2 には、初刷の出版・頒布年を記入する。

F 3

複製資料の場合、刊年 1 及び刊年 2 には、複製時の出版・頒布年を記入してはならない。

F 4

終号は所蔵しているが、初号を所蔵していないため、出版・頒布開始年が P U B フィールドに記入できない場合は、必ず刊年 1 に推定される刊年（不明部分はハイフン）と記入したうえで、刊年 2 を記入する。刊年 2 のデータだけを単独で記入してはならない。

変更

F 5

刊年 1 と刊年 2 の間には、スペース以外の文字を記入してはならない。

〔関連項目〕

6. 1. 11 P S T A T

6. 2. 4 P U B

6. 2. 7 N O T E

リモートアクセスされる電子ブックに関する取扱い及び解説

(平成 22 年 2 月 26 日版、平成 22 年 4 月より適用)

本取扱いでは、書誌レコード作成にあたって、リモートアクセスされる電子ブックが図書資料と大きく異なる点を取りまとめた。ここでは各事項についての基本的な考え方を示すにとどめ、詳細な規則や記述例については、別途作成している「コーディングマニュアル（リモートアクセスされる電子ブックに関する抜粋集）」で規定する。なお、電子ブックという名称については、ローカルアクセスで利用する電子ブックと混同する恐れがあるため、タイトルに「リモートアクセスされる」を付している。

また、本取扱いおよび「コーディングマニュアル」は、基本的には日本目録規則 1987 年版改訂 3 版（以下、NCR87R3）および英米目録規則第 2 版 2002 年改訂版 2005 年アップデート（以下、AACR2 Update2005）に準拠している。

ここ数年で、インターネット上のコンテンツとして利用できる図書、いわゆるリモートアクセスされる電子ブック（以下、「電子ブック」）が数多く存在するようになったことは、御承知のとおりです。

総合目録データベースにこれら電子ブックを登録できるよう、多くの図書館から要望されています。電子ブックを含む電子情報資源については、「次世代目録所在サービスの在り方について（最終報告）」（以下、最終報告）でその取扱いの方向性が示されています。しかしながら、その方向性に沿って総合目録データベースで電子情報資源を取り扱うようになるには時間が掛かります。

そこで、最終報告に沿った取扱いができるまでの間、電子ブックの取扱いができるように、暫定的な規則を作成しました。

以下に、取扱いの基本方針を示します。

1. 適用範囲

今回の取扱いでは、目録所在情報サービスを利用して図書館が入力すべきもの、図書館がデータ登録及び提供に責任をもって関与できるものという枠内で、適用範囲を考えています。また、ネットワークを通じてリモートで利用するものを適用範囲とし、CD-ROM 形態等のローカルアクセスで利用する電子ブックは適用範囲としません（これらについては、従来の図書書誌レコードの記述方法で対応します）。

2. 収録ファイル

従来の図書書誌ファイル及び図書所蔵ファイルに記録します。

これは、電子ブック用のファイルを、別に用意するまでの暫定的な処置です。この暫定処置で作成されたレコードは電子ブック用ファイルができた後、そちらへの移行を予定しています。

3. 書誌作成単位

形態が異なる冊子体と電子ブックは、別書誌レコードとして取扱います。親書誌レコードも別書誌レコードとして取扱います。

タイトルが変更となった場合、原則として更新資料のタイトル変更の例（2.0.6 D3）に従い別書誌レコードを作成するか否かの判断を行います。

4. ISBN 等の記録

ISBN 等のコード類は該当の電子ブックに関するものを記録します。例えば、同時に出版される冊子体の ISBN は XISBN に記録します。また、USMARC の記述を参考に、説明語句を記録できるようにします。

5. 出版・頒布等に関する記録

電子ブックに関しては、複製物である場合が多いため、複製物に相当する場合の記録の例を提示します。

6. 形態に関する記録

ISBD(ER)、日本目録規則では、「記録しない」となっています。しかしながら、現状の USMARC の記述や AACR2 の後継である RDA のドラフト（2008.10）を参考に、洋資料については、「1 online resource」、和資料については、「1 オンラインリソース」と記録することとします。また、印刷体とした際に想定される形態事項などを付記できるようにします。ISBD(ER)、日本目録規則の規定にも配慮して、記録が困難な場合は記録しないことも可とします。

7. アクセス方法の記録

記録用のフィールド IDENT (Identifier: 資源識別子) に記録します。

また、識別子として認知度が上がっている DOI の例を提示しました。

IDENT フィールドを利用できない場合の措置として、現行の NOTE フィールドに導入語句を伴う定型注記として記録します。

8. 「目録情報の基準」の変更点

暫定的な取扱いのため、「目録情報の基準」の内容に関わる変更はしません。

9. 「コーディングマニュアル」の変更点

コーディングマニュアルの新規追加部分「2.0.7」及び「16.0.1」の形式としますが、洋資料の電子ブックの規則としても適用します。

なお、この取扱いは最終報告に沿った取扱いができるまでの間の暫定的な規則となりますので、御留意ください。

10. 所蔵のない書誌レコードと書誌レコードの削除

電子ブックの一部書誌レコードについては、NII で一括して作成することを計画していますので、所蔵レコードのない書誌レコードが存在する場合があります。そのため、所蔵が

ないことを理由に書誌レコードの削除は行わないでください。

書誌レコードの削除（削除予定レコード化）は、以下の場合に限るものとします。

- 書誌レコードを誤って作成した。
- 書誌レコードが重複している。

なお、サービス停止等により利用ができなくなったものについては、廃止等の注記（2.0.7D6.6）を記録し、書誌レコードの削除は行わないでください。

コーディングマニュアル（リモートアクセスされる電子ブックに関する抜粋集）

（平成22年2月26日版、平成22年4月より適用）

2.0.7 リモートアクセスされる電子ブックの書誌記述

当面、リモートアクセスされる電子ブック（以下、電子ブック）の書誌記述に関しては、本規定を暫定的に適用する。

2.0.7A 〔適用範囲〕

この入力基準を適用するのは、以下の条件をすべて満たす電子ブックとする。

- (1) 逐次刊行物の定義に合致せず、一般的に書籍として扱われるもの。
- (2) 図書館でアクセスを保証できるもの。具体的には、出版者から購入している電子ブックや図書館等で作成・提供している電子的研究報告書類など。ILL で利用可能かどうかは問わない。
- (3) ネットワーク上で提供されており、URL などリモートアクセスのための識別子をもつもの。以下のものには、この入力基準を適用しない。

- (1) 一般的に書籍として扱わないインターネット上のコンテンツ。
- (2) 図書館としてアクセスを保証できない、ライセンスフリーの電子ブック。
- (3) CD-ROM 形態等のローカルアクセスで利用する電子ブック（これらについては、従来の図書書誌レコードの記述方法で対応する）。
- (4) 全文データベースや2次情報データベース。

2.0.7B 〔書誌レコードの作成基準〕

B1 （原則）

ネットワーク上の電子資料とは別に、冊子体やCD-ROM等の異なる資料種別で刊行されている場合は、それぞれ別の書誌レコードを作成する。親書誌レコードについても別の書誌レコードを作成する。

B2 （タイトル変化）

刊行途中で変化があった場合は、変化前と変化後で別書誌レコードは作成せず、最新のタイトル等を記録する。変化前のタイトル等はVTフィールドにコードOHを付して記録する。また、タイトルの変化の情報とともに、NOTEフィールドにも記録する。

B3 （複数のアクセス先）

同一の電子ブックが複数のアクセス先を持つ場合は、別の書誌レコードとはしない。IDENTフィールドに複数のアクセス先を記述する。（→ 2.0.7D5.2）

B4 （ファイルフォーマット等の違い）

同一の電子ブックが、HTMLやPDF等、複数のファイルフォーマット（文字セット、言語の違いも含む）で提供されている場合は、別の書誌レコードとはしない。

NOTEフィールドに複数のファイルフォーマットを記述する。（→ 2.0.7D6.5）

2.0.7C [記述の情報源]

記述のための情報源は、以下の優先順位で採用する。

- 1) タイトル画面
- 2) その他の内部情報（メニュー、プログラム記述、リードミー・ファイル、索引など）
- 3) その他の情報源

情報源自体が最新のものに変更されることから、確認できる最新のものを情報源として採用する。

2.0.7D [データの記入]

各フィールド毎、次のように記録する。

以下に規定しないフィールドについては、第2章、第3章の各フィールドの規定に従ってデータ記入を行う。

D1 (一般資料種別GMD、特定資料種別SMD)

機械可読データファイルに関する資料種別コードを記録する。

GMD:w SMD:r

(機械可読データファイルを示すコード「w」、リモートファイルを示すコード「r」を記録)

D2 (ISBN等のコード類)

ISBN等のコード類は、記述対象の電子ブックに関するものを記録する。

D2.1 (VOLフィールド)

VOLフィールドには、説明語句として、電子ブックを示す説明語句を記録してもよい。

VOL:: electronic bk ISBN:9784431094166 XISBN:4431707913

(電子版のISBNと冊子版のISBN両方がある場合)

VOL: ISBN: XISBN:4431707913

(電子版のISBNがなく、冊子版のISBNのみがある場合)

VOL: ISBN: XISBN:9784431094164

(電子版のISBNがISBNフィールドに入力できない場合)

D3 (出版・頒布等に関する事項)

複製物に相当する場合には、その原資料ではなく、電子ブックに関する出版・頒布等に関する事項を記録する。原資料の出版・頒布等に関する事項は注記する。

PUB:Boulder, Colo. : NetLibrary , 2006

NOTE:原資料の出版事項: 東京 : 紀伊國屋書店 , 1994

D4 (形態に関する事項 PHYS)

リモートアクセスされる電子ブックの場合、形態に関する事項は、洋資料は「1 online resource」、和資料は「1オンラインリソース」と記録する。また、その後に印刷体を想定した形態事項などを付記できる。形態事項を記録することが困難な場合は、記録しなくても良い。

1 online resource (3 v.)

1 online resource (100 p.)

1オンラインリソース (iv, 256p)

D5 (アクセス先に関する事項 IDENT) (Identifier: 資源識別子)

D5.1 (アクセス先の記録)

リモートアクセスされる電子ブックの場合、アクセス先のURLなどに関する事項を記録する。

IDENT:http://springerlink.com/content/j3t4g388634h/

IDENT:http://www.netLibrary.com/urlapi.asp?action=summary&v=1&bookid=225215

IDENT:DOI:10.1039/9781847558152

D5.2 (複数のアクセス先)

サービス提供者によりURLが異なる場合等、複数のアクセス先がある場合は、このフィールドを繰り返す。

IDENT:http://springerlink.com/content/j3t4g388634h/

IDENT:http://metapress.com/content/j3t4g388634h/

D5.3 (アクセス先の変更)

なお、このアクセス先は、常に最新の利用可能なものを記録するものとする。利用不可能となった古いアクセス先は削除し、NOTEフィールドに記録する。

D6 (注記 NOTE)

D6.1 (アクセス先の注記)

IDENTフィールドが利用できない場合の措置として、導入語句を伴う定型注記として記録することができる。

複数のアクセス先がある場合は、このフィールドを繰り返す。

NOTE:URL:http://springerlink.com/content/j3t4g388634h

D6.2 (古いアクセス先の注記)

URL等が変更となった場合、利用不可能な古いURLを記録する。

TR:目録情報の基準. -- ED:第4版

IDENT:<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/MAN/KIJUN/kijun4.html>

NOTE:URL:<http://www.nacsis.ac.jp/CAT-ILL/MAN/KIJUN/kijun4.html> (2000年3月まで。現在は利用不可能)

D6.3 (アクセス方法の注記)

アクセス方法に関して、導入語句を伴う定型注記として記録する。

NOTE:アクセス:WWWによる

NOTE:Access:via World Wide Web

NOTE:Access:via File Transfer Protocol services

D6.4 (アクセス条件の注記)

所蔵図書館の購入契約条件などによらず、その雑誌に共通するアクセス条件に関して、導入語句を伴う定型注記として記録する。

NOTE:アクセス:利用はコンソーシアム参加館のみ

NOTE:アクセス:ライセンスフリー

NOTE:アクセス:ILL利用は不可

NOTE:Access:only consortium libraries

D6.5 (ファイルフォーマット等の注記)

HTMLやPDF等、複数のファイルフォーマット(文字セット、言語の違いも含む)で提供されていることについて、その旨注記する。

NOTE:PDF, HTML形式により、利用可能

NOTE:HTML, PostScript and ASCII formats

NOTE:Available in GB, BIG5, and HZ formats for online viewing

NOTE:In English and Spanish

D6.6 (廃止等の注記)

廃止等により、アクセスができなくなった場合、その旨注記する。

NOTE:アクセス:2009年2月から廃止により不可

NOTE:Access:Ceased publication in 1999

D6.7 (情報源の注記)

必要に応じて、タイトルの情報源について注記する。

NOTE:タイトルはメニュー画面による

16.0.1 リモートアクセスされる電子ブックの所蔵記述

当面、リモートアクセスされる電子ブック（以下、電子ブック）の所蔵記述に関しては、本規定を暫定的に適用する。

16.0.1A [適用範囲]

2.0.7Aに規定する適用範囲に準ずる。

16.0.1B [データの記入]

B1(配置コード LOC)

出版者から購入している電子ブックを機関全体で利用できる場合、いずれかの参加組織の任意の配置コードを記録する。

その機関内で作成・提供している研究報告等の電子ブックの場合は、作成・提供機関に相当する参加組織の任意の配置コードを記録する。

B2(所蔵巻次データ VOL)

その参加組織でアクセス可能な巻次データを記入する。

または、その機関で作成・提供している巻次データを記入する。

廃止などによりアクセスが不可能となった場合は、所蔵レコードを削除する。

B3(コピーノート CPYNT)

B3.1(ILLでの利用)

当該電子ブックについて、ILLサービスにおいて利用できる場合、フィールド冒頭に「ILL可」と記述する。

CPYNT:ILL可

B3.2

その他、参加組織独自の利用条件等に関する事項は、ここに記録する。

複数URLが存在し、利用者に明示する必要がある場合は、ここにURLを記録する。

以上